

ふしみサラダボール子育て情報

「知的発達」

令和4年11月16日号

板橋富士見幼稚園



何度も繰り返し言葉を学ぶ

言葉は、人間にだけ与えられた贈り物です。言葉は感情と一体となっています。人間は生まれてから5歳までに、一体どれくらいの言葉を覚えるのでしょうか。3歳になると1000語程度の言葉を獲得し、5・6歳までには約3000語を獲得すると言われています。生まれてから僅か3年間で1語文・2語文・3語文と言葉を獲得し、人と不自由なく対話ができるようになり、自分の気持ちも表現できるようになる ということを考えると、子どもの成長過程がいかに著しい速度かお分かりかと思います。

では何故、言葉の遅い子と早い子がいるのでしょうか。実は、内面に何か課題を抱えていなければ、前述した通り誰もがたくさんの言葉を獲得しています。しかし、発話となるとまた別の問題になります。周囲の環境の影響によって、おしゃべりになったり、無口といわれる子になったりします。身体に溜め込んでいる言葉の量は同じでも、発話となると様々な環境によって表現の仕方は変わってくるのです。

では、言葉を楽しく獲得し発話していくためには、どのような環境が必要なのでしょう。

まず、「遊びを十分にできる環境」が重要です。次に、「素材や時間・空間」が必要です。特に素材は、色々な角度からイメージできるものが良いとされています。そして遊びを何度も繰り返しながら、少しずつ変化させていけることが条件となります。最後に、「人」です。話す相手が聞き上手だと、言葉の獲得への早道となります。聞き手は、ただ聞き取るだけでなく、「うん



うん」とうなずいたり、「それから…?」とその先を引き出してあげたりすること、さらには疑問を投げかけてあげたりすることがとても大切です。このやり取りの中には、沢山の感情が秘められています。やり取りを通して、安心感・安定感・信頼関係そして、自己肯定感等を培うことができます。時にはゆっくり時間をかけて笑顔で、子どもと対話をしてみてはいかがでしょうか。

【写真：年中さんがイチゴの苗を植えました。来年の収穫祭を楽しみに、大切に育てていきます。】